

信長、秀吉、家康らが駆けつけた戦国の近江
18のテーマを詳細なコース図でめぐる

近江城郭探訪

合戦の舞台を歩く



滋賀県教育委員会編

第1章 天下を扼した三城——大津城・膳所城・蒲田城……………4

■大津城—膳所城—蒲田城

第2章 元亀争乱を歩く——大津市北西部の城……………14

■宇佐山城—豊笠山城—藤原寺

第3章 元亀争乱を歩く——高島平野の城……………30

■田原城—伊井城—清水山城—田中(上寺)城—打下城

第4章 街道の要——御茶屋御殿……………44

■水口城—水口岡山城—水原御殿—伊庭御殿—松澤御殿

第5章 境目の城——戦国近江の南北国境地帯……………56

■鎌刀城—太尾山城—佐和山城

第6章 乱世を生きた江北の雄——京極氏の足跡……………66

■京極家墓所(清滝寺徳源院)—弥高寺—上平寺城—京極氏館

第7章 姉川の合戦を歩く……………72

■横山城(北城・南城)—大原観音寺—横原寺—北平寺—坂南寺—松山寺—龍ヶ鼻寺—岡山(勝山)—合戦史跡—三田村城跡(伝正寺)—長比城

第8章 小谷城攻防戦を歩く……………82

■丁野山城—中島城—小谷城—虎御前山城—御屋敷—三田村屋敷—大野木屋敷—山本山城

第9章 賤ヶ岳の合戦を歩く……………92

■賤ヶ岳城—東野山城—田上山城—別所山荘—行市山荘—玄蕃尾城

第10章 天下布武——安土、信長の城と町……………104

■沙沙貴神社—浄厳院—下街道(朝鮮人街道)—普堂・梅の川の清水地—木村城—常楽公園(常楽寺池)—興立安土城考古博物館—安土城天主信長の館—安土城—セミナリヨ跡

第11章 赤鬼の城・彦根城——井伊家の城と城下町……………120

■彦根城—番利結足経組屋敷—鈴木屋敷長屋門

第12章 甲賀武士団の城——甲賀五十三家の居城跡群……………130

■公方屋敷支城—榎田城—和田支城—和田城—高嶺北城—高嶺中城—伊賀国見城—高嶺南城—高嶺山城—高嶺東谷城—獅子ヶ谷城—山岡城—毛枝北城—多喜南城—多喜北城—梅垣城—大原城—上野城—木内城—油日城—裸野大原城—滝川城—滝川支城—滝川西城—北上野城—竹中城—倉治城—膳部城—新宮城—新宮支城—寺前城—村雨城—望月支城—望月城—野尻城—野尻支城

第13章 法難の城——焼き討ちにあった城塞化寺院……………160

■百濟寺—金剛輪寺—西明寺—勝楽寺城—敏満寺

第14章 守護大名の権威とその最後——近江源氏・六角氏……………168

■観音寺城—沙沙貴神社

第15章 信長湖上ネットワーク——「陸の道」と「湖上の道」……………176

■長浜城—妙法寺—長浜御坊大通寺—下坂氏館—大溝城—大溝陣屋惣門—鹿光寺—分部家墓所—坂本城—聖衆来迎寺—善立寺—芦浦観音寺

第16章 豊臣の城と城下町——豊臣秀次と八幡山城……………186

■八幡山城—村雲御所瑞龍寺—日牟禮八幡宮—八幡堀—旧市街—水郷

第17章 蒲生氏の城——日野町に残る城跡群……………194

■山屋敷—鎌掛城—音羽城—仁正寺藩武家屋敷—中野城—信楽院—鳥居平城—長丁城—仲明寺—佐久良城

第18章 信長、再起を期す——朽木氏とその周辺……………204

■野尻坂城—西山城—朽木城(朽木陣屋)—旧野尻寺跡—朽木氏岩神館—旧興聖寺跡(朽木家墓所)

城郭用語の基礎知識……………215
滋賀県の博物館・資料館……………216

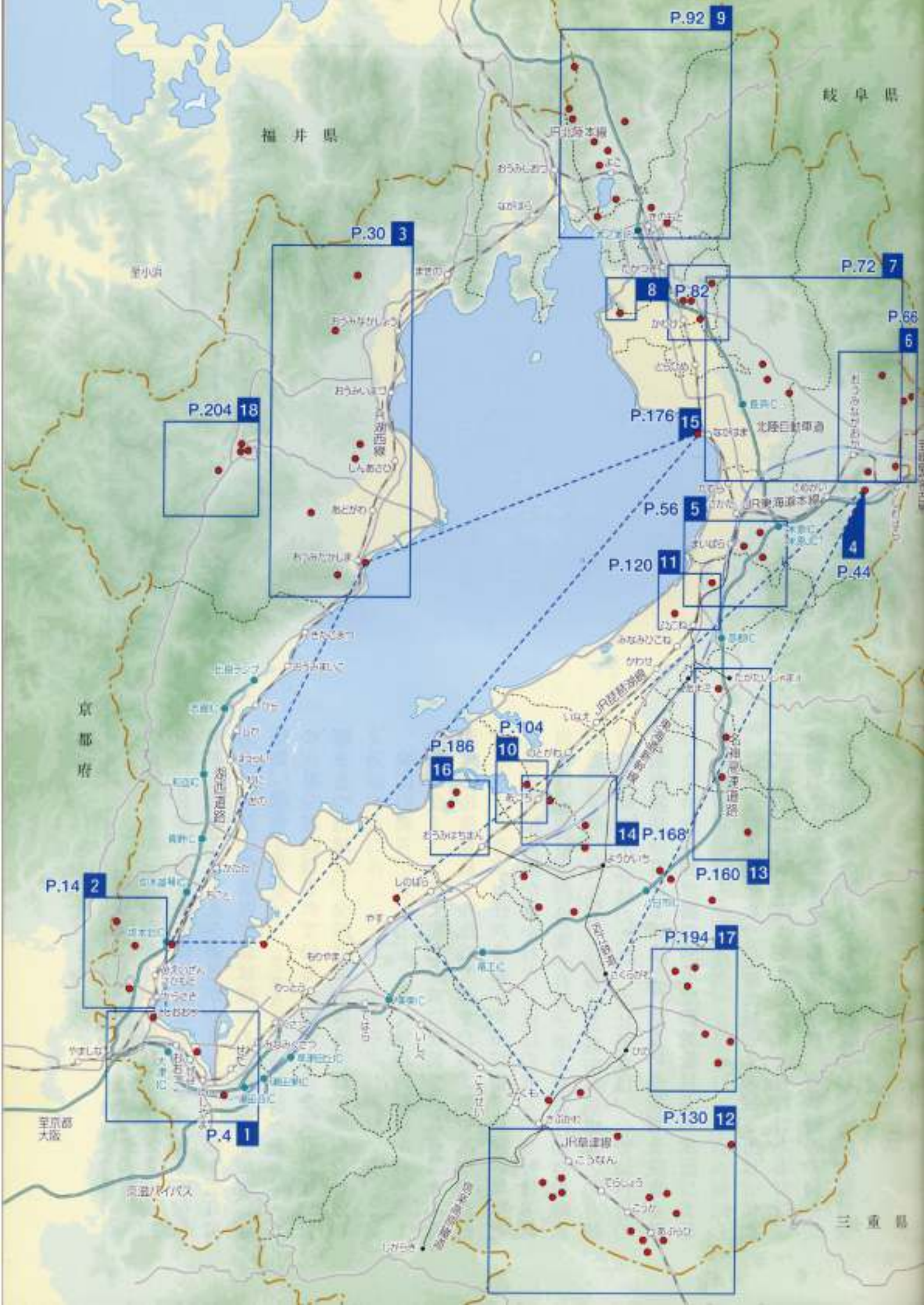
各章コース図の見方

● JR安土駅 ……探訪コースのスタート地点
● JR安土駅 ……探訪コースのゴール地点
→ ……基本的な探訪コース
→ ……足を延ばして探訪コース
 1.0km / 10分 ……区間距離と所要時間
■ 安土城 ……城跡、舊跡
● セミナリヨ跡 ……その他のスポット、目印など

※国土院発行の25,000分の1および50,000分の1の地形図などを使用。平成の大会以前のものも含む。

表紙

秀次館石垣(近藤誠)
 左 上: 小谷城跡と姉川(滋賀県教育委員会)
 右 下: 彦根城天守櫓と面下橋(辻村精司)
 裏表紙: 彦根城天守(辻村精司)
 表 幀: 岩崎紀彦



姉川の合戦を歩く



小谷城跡と姉川

姉川の合戦への道のり

元亀元年（一五七〇）六月二十八日の早朝、織田信長・徳川家康の連合軍は、浅井長政・朝倉景建連合軍と姉川を挟んで対峙し、衝突した。これが姉川の合戦である。

合戦までの経緯を振り返ってみよう。永禄十一年（一五六八）、信長は上洛を果たし、足利義昭を五代將軍につけ、天下布武の実現に向けて動き出した。元亀元年四月二十日信長は、度々の上洛命令を無視し続けた越前の戦国大名朝倉景建を討つため、大軍を率いて京を発し、越前に侵攻した。しかし、背後で妹婿である浅井長政が、突然反旗を翻し、かつ湖東方面で六角承禎までが兵を挙げたため、信長は、若狭から朽木谷を抜けかろうじて京に退却した（第2・3・18章参照）。四月二十日のことである。信長は、五月九日、岐阜に向かい京を

■横山城（北城・南城）—大原観音寺

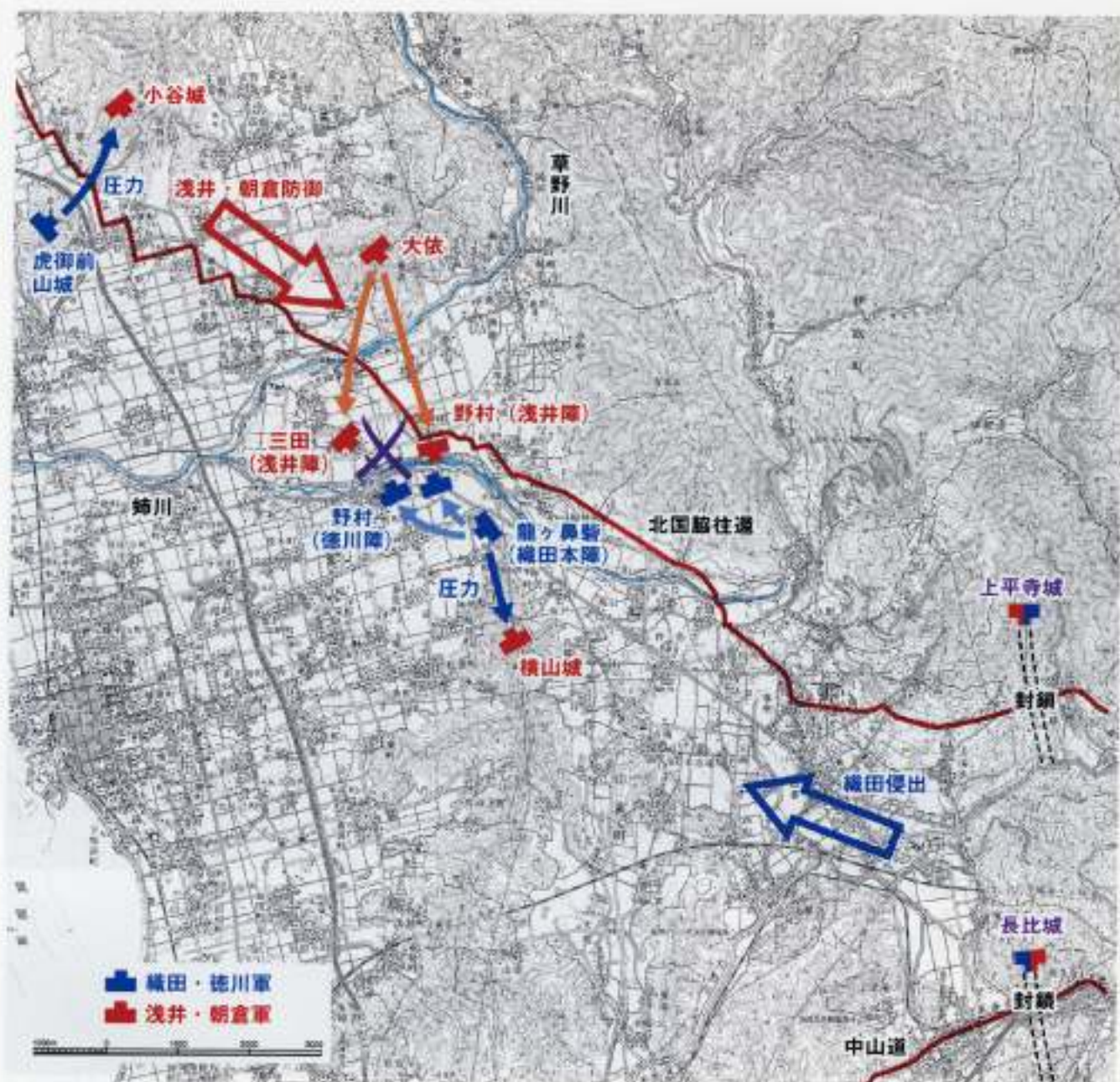
■梶原砦—北平砦—坂南砦—総山砦—龍ヶ鼻砦

■岡山（勝山）—合戦史跡—三田村城跡（伝正寺）

■長比城

立ち、五月二十一日に岐阜城に帰城した。六月四日に柴田勝家らが六角承禎を撃破し、湖南方面を制圧すると、六月十九日信長は、浅井長政を討つために岐阜城を發した。

これに対して長政は、長比城および上平寺城を改築し、家臣の堀秀村と樋口直房を配し、中山道と北国脇往還を封鎖しようとした。しかし、この両者ともが信長に寝返ったため、信長は戦うことなく近江に侵入し、六月二十一日には小谷城の正面に位置する虎御前山に陣を設け、小谷城下に放火した。しかし、城攻めを避け、いったん撤収し、その矛先を小谷城の支城・横山城に向けた。六月二十四日にこれを包囲し、信長自身は横山城から派生する尾根の先端・龍ヶ鼻に陣を置いた。この日、援軍の徳川軍も到着し龍ヶ鼻で合流した。同日、浅井氏救援のため朝倉景建の従兄弟朝倉景建の軍が到着し、小谷城と横山城の間にある大依山に布陣した。これに浅井軍も合流し、



姉川の合戦の布陣

横山城を攻める信長軍の背後をうかがう体制をとった。これに対し、信長軍は主力を北に向け迎撃体制を整えたが、六月二十七日の夜、突然、浅井・朝倉軍は進軍を開始し、翌二十八日の未明には野村に浅井軍が、三田村に朝倉軍が布陣した。これに対し、信長軍は野村の浅井軍に向かい、徳川軍は三田村の朝倉軍に当たるとため岡山に布陣した。同日卯刻(午前六時頃) 戦いの火蓋が切って落とされた。

戦いは、数で勝る織田・徳川連合軍の優勢のうちに進み、退却する浅井・朝倉軍を小谷城下まで追撃したが、小谷城を攻略するには至らず、再び横山城を包囲し、これを開城させ、定番に羽柴秀吉を置くと、主力を佐和山城(第5章参照)の攻略に向け、これを翌年二月に開城させた。

姉川の合戦とは

一般に姉川の合戦は、織田・徳川連合軍の圧勝に終わったとされている。しかし、このことに対して、懐疑的な考えも提示されるようになってきた。

通常、戦国大名の軍は、大名の臣下の兵を集合させて成立していることに加え、損失は大名自らが補填しなければならぬことから、人的損害の大きい正面衝突や、城に対する「無理攻め」などは避け、政略・